

社会環境部会セッション「原子力界の未解決問題 —原子力学会が果たすべき役割」

原子力界が抱える積み残し課題とその論点

Discussion on the Unsettled Issues of Japanese Nuclear Community

*諸葛 宗男¹¹パブリック・アウトリーチ

1. はじめに

3.11 の反省とこれまでの原子力界の在り方をあらためて考え合わせると、国民の福祉の維持向上を目的として、原子力の平和利用を進めていく上で、原子力界として解決しなければならないいくつかの重要な問題がある。本企画ではそれらの問題群の一端を整理して提示し、その解決へ向けた議論の足がかりを提供する契機とするとともに、原子力学会が果たすべき役割を考える。具体的には下記のような問題群を想定している。

2. 未解決問題群

● 安全神話

24年前に原子力安全委員会が事故発生を想定した対策を決定したのに実施されなかったのはなぜか。
事故前に事故は起きない、とする安全神話が蔓延していたと政府事故調に指摘された根本原因は何だったのか。

● 法体系、法整備の問題

いつになったら、AESJ が問題提起した我が国の安全基本原則と深層防護が明確化されるのか。
国際基準で一体化されている原子力防災と安全規制をいつまで別扱いし続けるのだろうか。

● 原子力をめぐる多様なステークホルダー間の調整回路の問題

規制が事業者の虜にされないための歯止めは「独立性」だけで十分なのか。
研究開発と事業推進と建設メーカーの調整は日本的「協議会」で本当に調整可能か。

● 原子力推進と規制との関係やあり方

推進側には自己改革能力はないのか。規制の勧告が出るまでなぜ誰も動かないのか。
いつになったら原子炉等規制法に放射線防護の要求を明記するのか。

● 日本の規制はどうすれば米国 NRC と同じような規制が出来るようになるのか

NRA はどうすれば米国 NRC のように事業者の実務的指導が行えるようになるのか。
NRA はいつまで形骸化した3階建て検査を続け、いつになったらリスクベース規制に転換するのだろうか。

● 高レベル放射性廃棄物をめぐる問題

国の安全基準がないまま、立地選定を続けることは国民の理解が得られるのだろうか。

● 新設炉の安全性

どのメーカーも既設炉よりも安全性を大幅に改善した新設炉を海外で提案している。
我が国では新設炉に関する議論が皆無に近いが、事故経験国として新設炉への提言をすべきでないだろうか。

3. 今回取り上げるテーマ

社会・環境部会は国民の多くが疑問を抱いているこれらの問題を座視するのではなく、積極的に解決を促す役割を果たしたい。春の大会では積み残された重要課題の抽出と、論点を提示し、その皮切りとして、国民の関心が最も高いと考えられる「安全神話」問題を取り上げる。今後は提起した課題を順次、焦点化していく予定である。

*Muneo Morokuzu¹¹ Public Outreach (PONPO)